

つながりがはぐくむ豊かな暮らし ～誰一人取り残さず、共に創る未来へ～

令和6年度 長岡市市民協働推進審議会

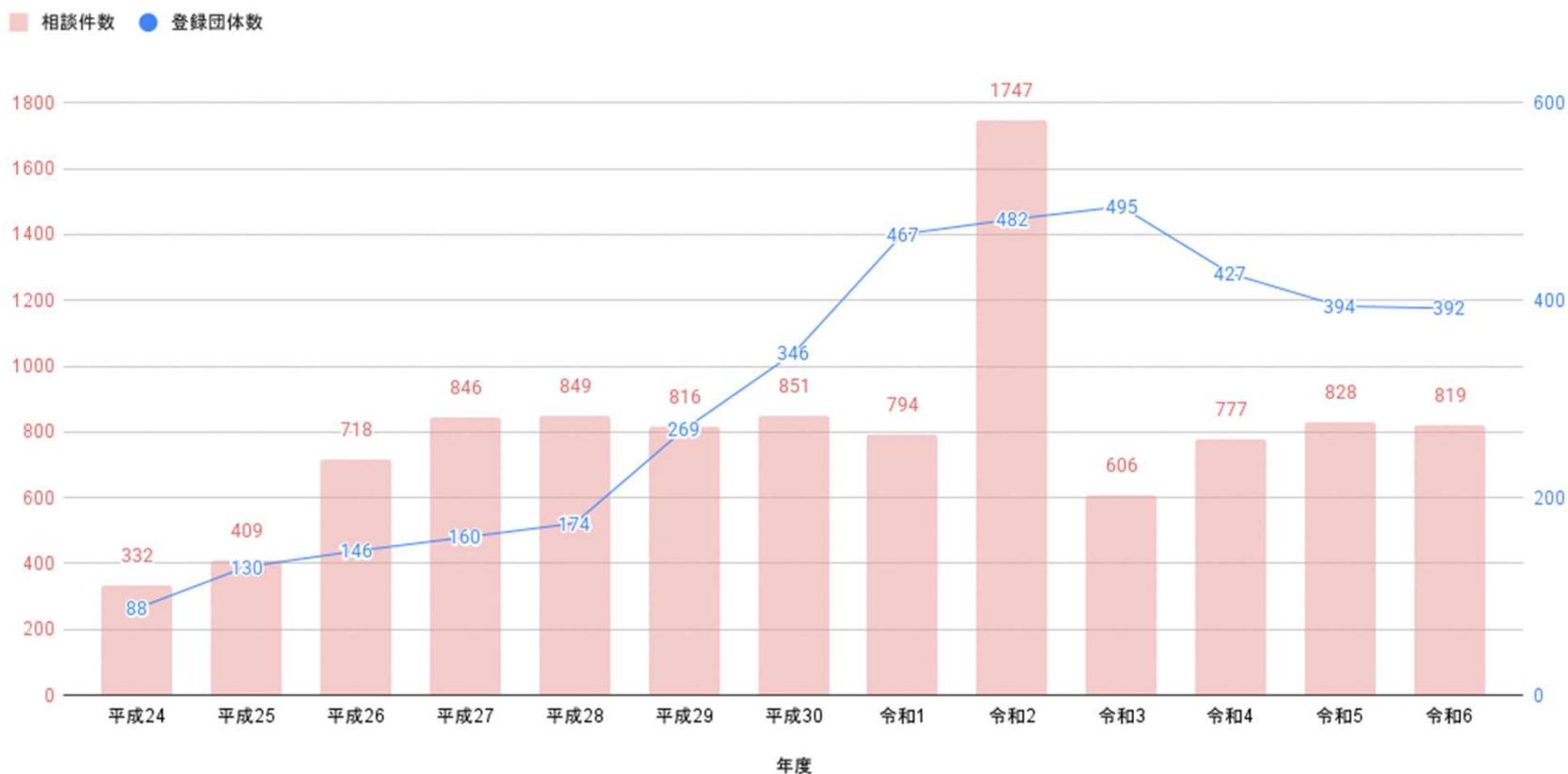
令和7年2月25日（火曜日）午前10時～ 第1・2協働ルーム

1. 市民活動のいま
2. 市民活動団体の声
3. 新たな協働のビジョン

1-1 市民活動のいま（市民協働センターの取組）

市民協働センター相談件数と登録団体数の推移

登録団体数と相談件数_ながおか市民協働センター



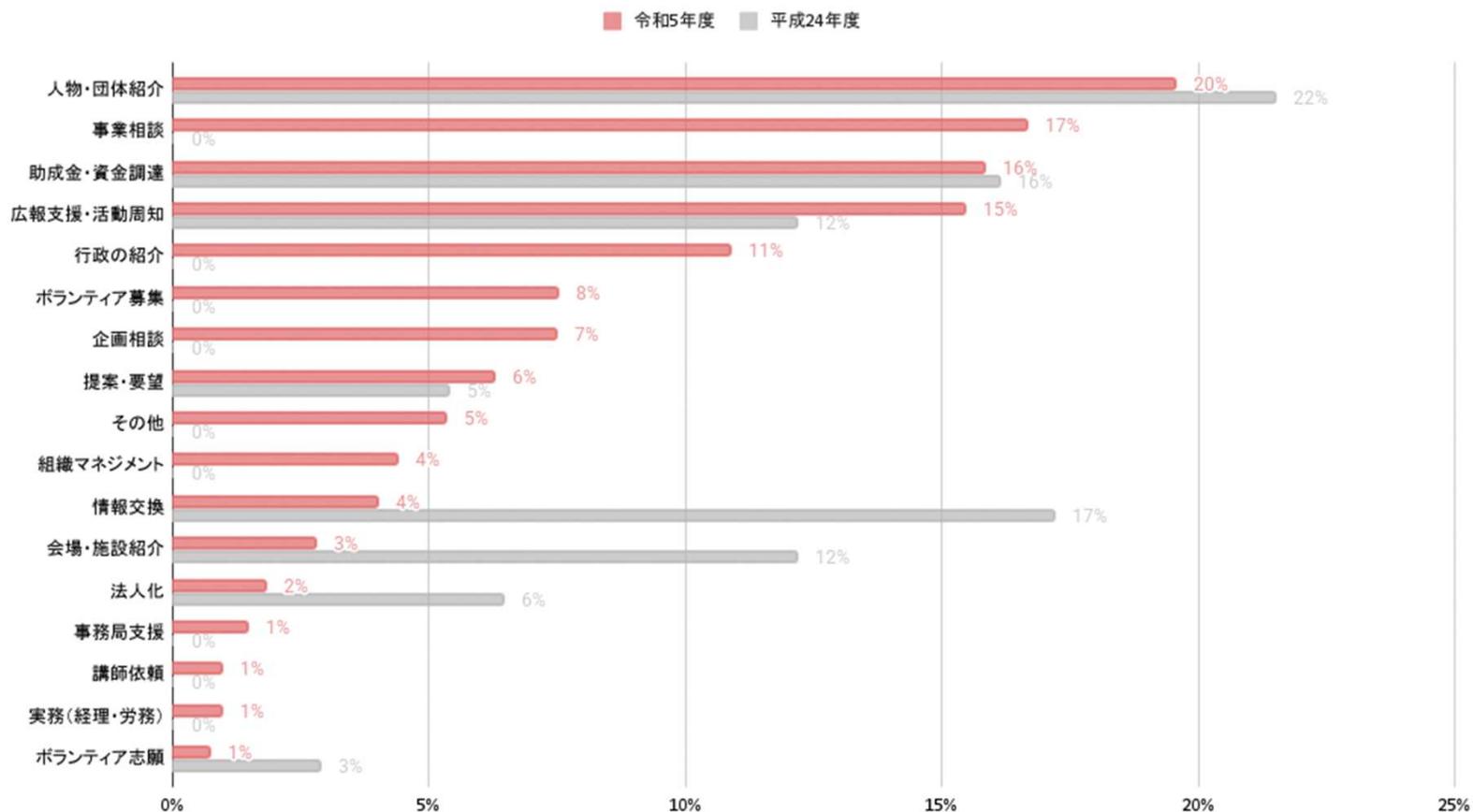
※令和6年度は、12月末までの値。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にまけない市民活動団体奨励金の相談件数1,162件を含む。

1-2 市民活動のいま（市民協働センターの取組）

市民協働センター相談内容の内訳

相談内容の比較(割合)



市民協働条例制定時（平成24年度）と比較して、相談の質に変化が見られる

1-3 市民活動のいま（市民協働センターの取組）

相談・支援事例①

Happyキッチン「はぴ吉」

- 子ども食堂事業が地域の新たなハブとして機能
- 住民が集まるいこいの場として、また運営班・調理班への参加で自己有用感を感じられる場として、世代や立場を超えた関係性が生まれている。



1-4 市民活動のいま（市民協働センターの取組）

相談・支援事例②

ベトナムフェス in Nagaoka 実行委員会

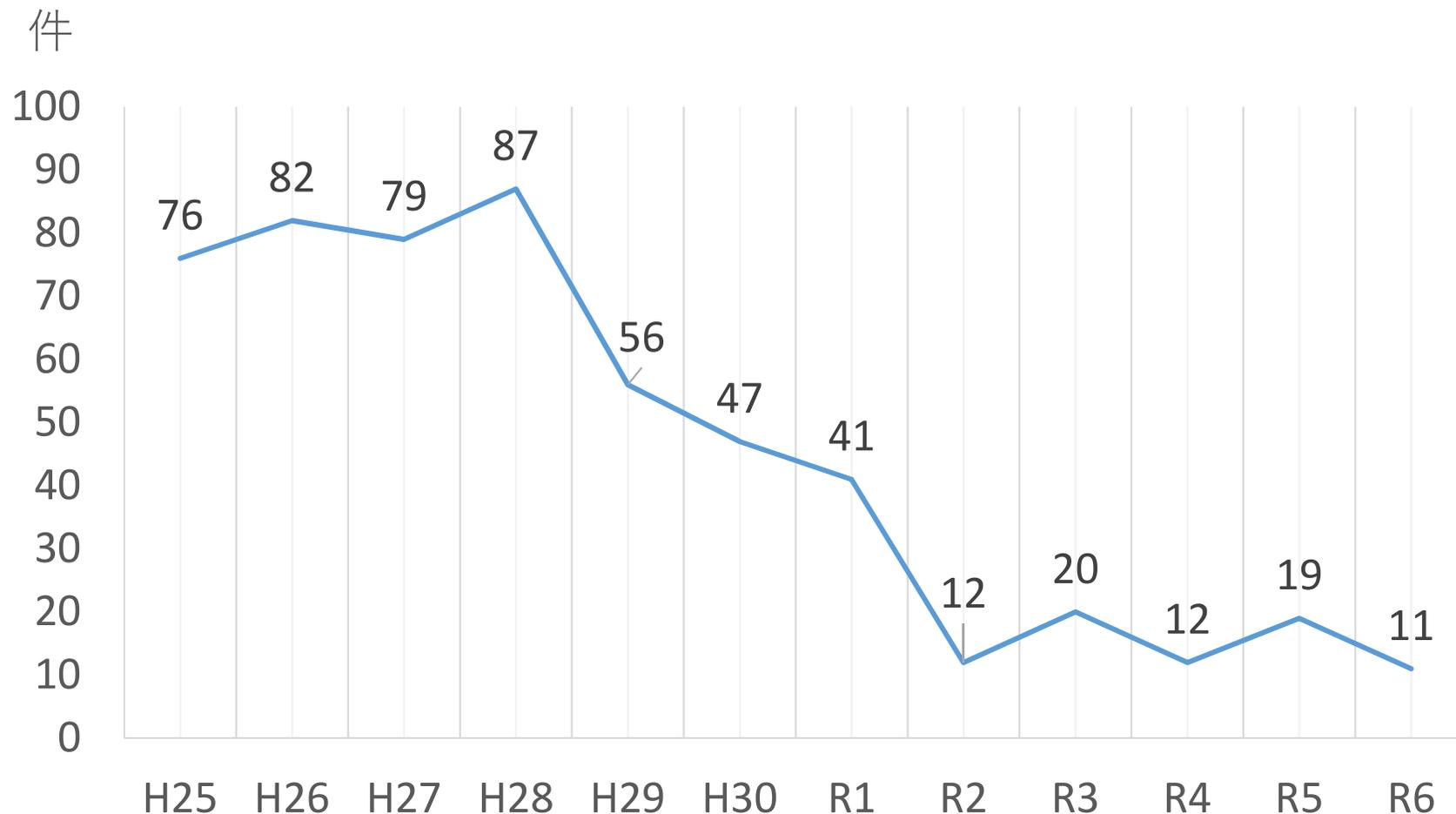
- 長岡市在住のベトナム籍の留学生や技能実習生とともにイベントやその運営を行う。
- 前年に続く2回目の開催では、他団体への出展の呼びかけや、企業への協賛依頼を行い、規模の拡大や参加者を増やすことにつながった。



1-5 市民活動のいま（市民協働センターの取組）

未来共創補助金採択件数の推移

採択11事業のうち9事業が10万円以上の補助額



1-6 市民活動のいま（コミュニティセンターの取組）

コミュニティセンターの設置状況

住民同士の交流や、地域への思いと理解の醸成を図ることを目的に、地域活動を行う拠点施設として設置。日頃から住民同士が顔を合わせ、相談できる共助の基礎作りの場となっている。

- 設置数

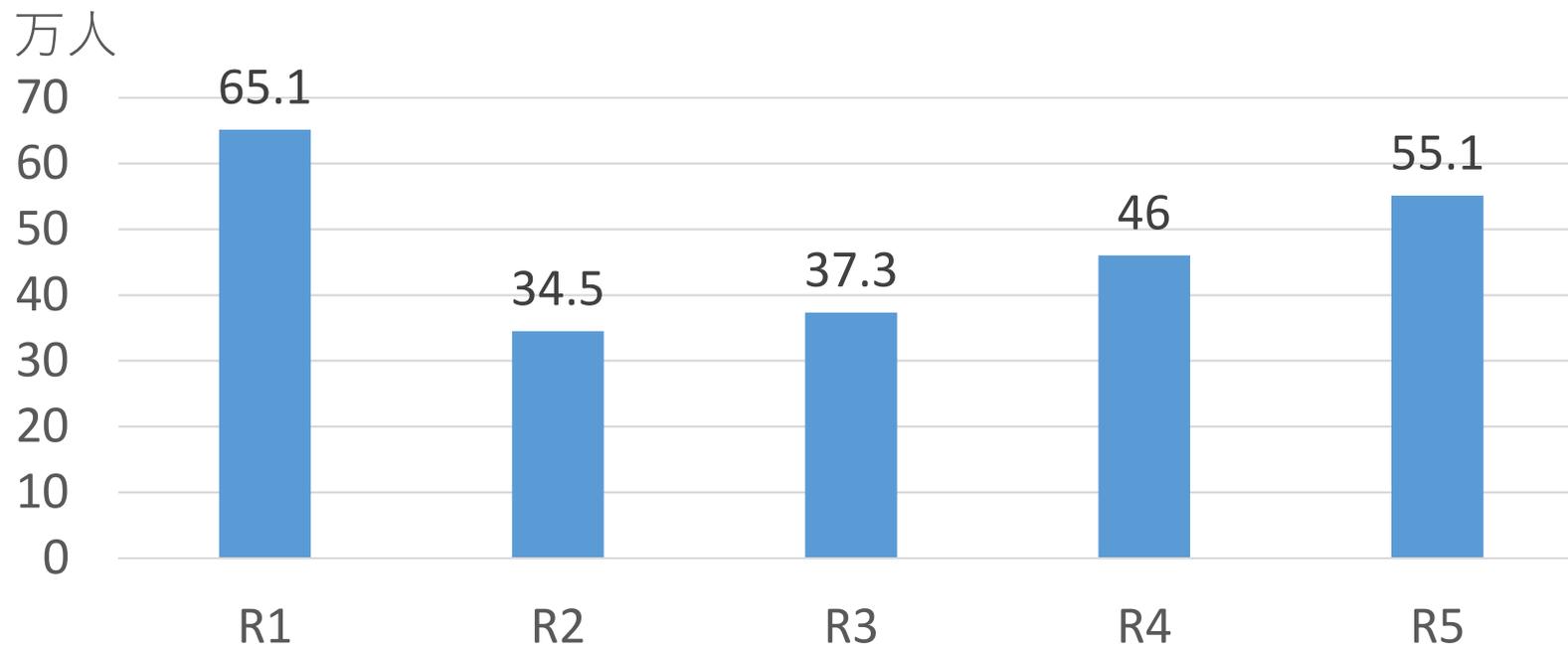
52施設（本館40、分館2、分室10）

※旧長岡市は小学校区単位、支所は地域単位（越路地域を除く）

1-7 市民活動のいま（コミュニティセンターの取組）

コミュニティセンターの利用状況

- 市民活動団体、町内会、コミセン主催事業など幅広く利用されている。
- 令和2年度の新型コロナウイルス感染症により利用者が減少したが、徐々に回復傾向



1-8 市民活動のいま（コミュニティセンターの取組）

地域コミュニティ活動の事例①

- 地域の若い世代との連携・交流
- 関原地区や深才地区では、地元中学生や崇徳大学生によるスマホ教室、長岡技術科学大学生によるe-スポーツ体験会が行われた。



1-9 市民活動のいま（コミュニティセンターの取組）

地域コミュニティ活動の事例②

- 山通地区では、山下遺跡を中心とした地域PR活動及び若者への伝承が行われた。
- 山下遺跡散策や土器鑑定などを通して若い世代へ地域の文化を伝えた。



1-10 市民活動のいま（コミュニティセンターの取組）

地域コミュニティ活動の事例③

- 川口地域では、能登半島地震の被災地支援を通じた自主防災力向上の取組が行われた。
- 与板地域では、防災をテーマとした体験型イベントを通して、世代間交流や一体感醸成が図られた。

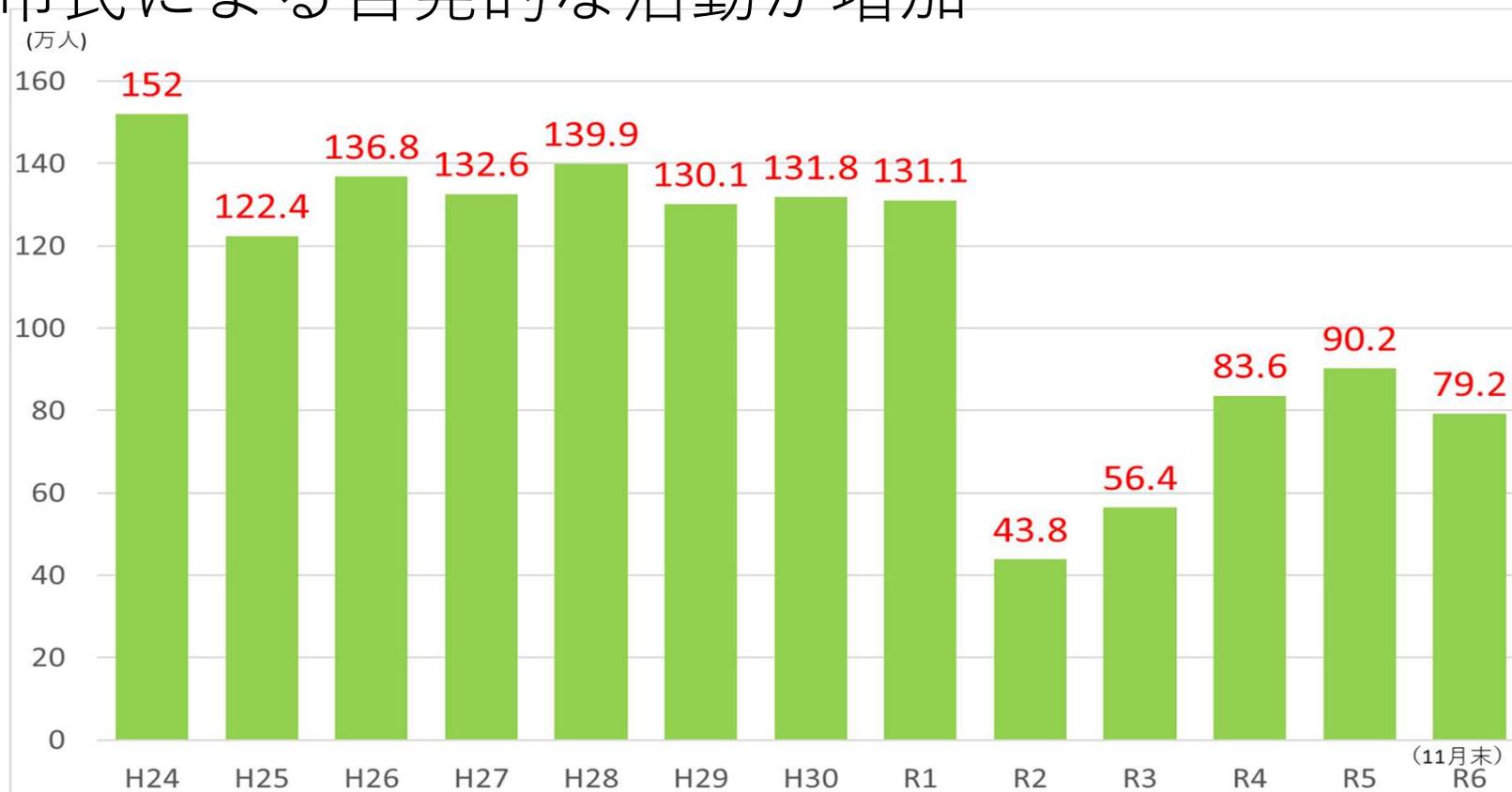


1-11 市民活動のいま（アオーレ長岡の取組）

利用者数の推移

延べ利用者数 14,299,494人(R6.11末時点)

- ・ 市民主体イベントが全体の約85%
- ・ 市民による自発的な活動が増加



1-12 市民活動のいま（アオーレ長岡の取組）

アオーレ長岡活用事例①

ながおか市民活動フェスタ2024

テーマ「つながろう み～んなの笑顔のために」のもと団体同士のコラボやつながりが生まれ、参加団体のハレの場となった。

日時：9月28日（土曜日）

参加団体：65団体（初参加：18団体）

来場者：7,000人



1-13 市民活動のいま（アオーレ長岡の取組）

アオーレ長岡活用事例②

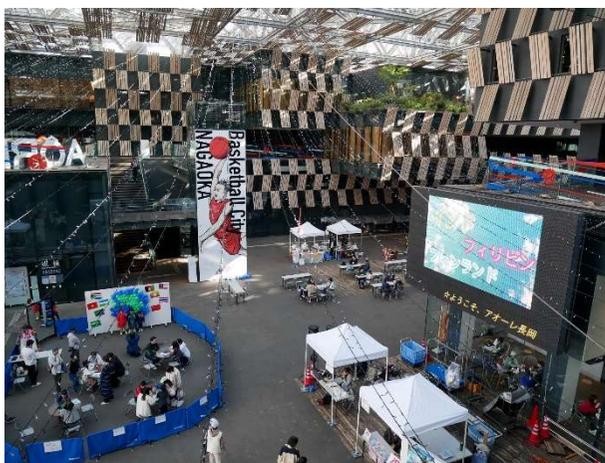
新たな次世代のプレイヤーがアオーレを活用

市内高校生が中心となりイベントを企画運営。ながおか未来創造ネットワークが一貫したサポートを実施。

イベント：世界一周フェスティバル【初開催】

日時：11月9日(土), 10日(日) 来場者：2,045人

内容：世界のフード、遊び、文化の紹介等



2-1 アンケート結果

アンケートの概要

- **目的**：「長岡市が目指す協働のビジョン」の改定にあたり、市民活動団体の声を反映させる。
- **調査対象者**：長岡市内で活動する、2名以上で構成された非営利団体
- **調査方法**：アンケート用紙に記入またはWEB回答（市内公共施設から利用団体等へ依頼）
- **調査期間**：令和6年7月17日から8月23日
- **有効回答数**：456件

2-2 アンケート結果

アンケート結果の概要

- **平均年齢**：約 7 割が60代、70代以上
- **活動資金**：前回と比較して、補助金が減少し、会費が増加
- **団体の課題**：約半数が高齢化や後継者育成、スタッフ確保を課題に。資金面を挙げた団体は少数
- **必要な支援**：広報・集客をはじめ、幅広い分野の回答あり。特になしが約 3 割で最多
- **今後の活動**：約 9 割が今後活動を継続または拡大させたいと感じている。

3-1 次期ビジョンについて

2020年のビジョン策定時の背景

- 2012年に市民協働条例を制定

長岡市市民協働条例 第3条（基本理念）

1. 市民と市は、協働のまちづくりを推進することにより、将来にわたり市民の更なる幸せな生活の実現を目指すものとする。
2. 市民と市は、それぞれがまちづくりの主役として、自発的に活動するものとする。
3. 市民と市は、それぞれの特性の違いを活かし、自助・共助・公助の理念にのっとり、相互に補完し合いながら、まちづくりを行うものとする。

- 2020年、市民協働条例の理念をわかりやすく共有するため、審議会でビジョンを策定
- 現行のビジョンは2025年で見直し

3-2 次期ビジョンについて

方向性

- 市民協働条例の理念は一定程度定着。
- イメージ（図表）は前ビジョンのものを維持し、より簡素に。
- 「まちづくりを担う人材の育成」を重点的に取り組むことで、若い世代がまちづくりの新たな核となってくれることに期待。
- 「誰もがチャレンジできるまち」をサブタイトルとしてはどうか。

3-3 次期ビジョンについて

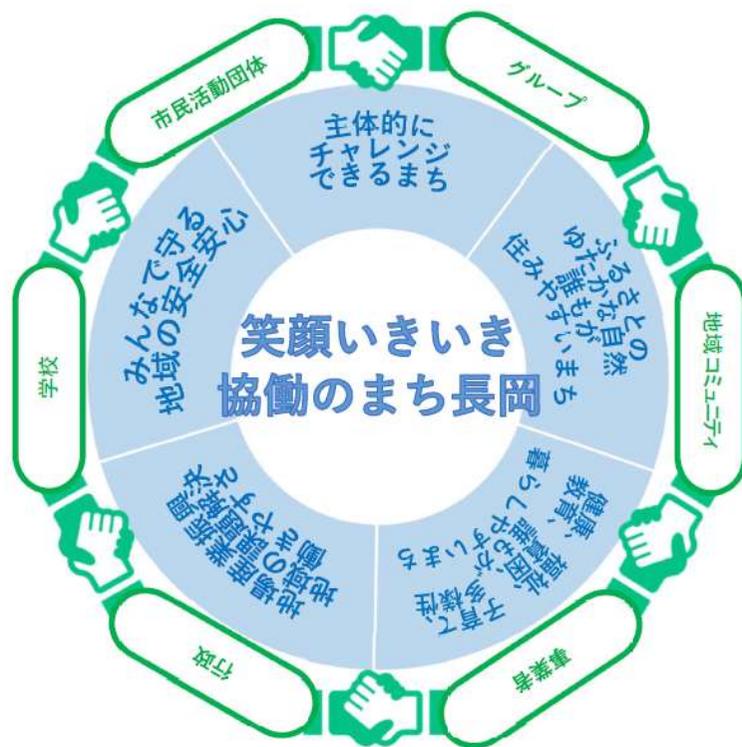
次期ビジョン

長岡市の協働が目指すビジョン（2025～2030）

つながりがはぐくむ豊かな暮らし～誰もがチャレンジできるまち～

ビジョンの根幹となる基本理念（長岡市市民協働条例 第3条より）

1. 市民と市は、協働のまちづくりを推進することにより、将来にわたり市民の更なる幸せな生活の実現を目指すものとする。
2. 市民と市は、それぞれがまちづくりの主役として、自発的に活動するものとする。
3. 市民と市は、それぞれの特性の違いを活かし、自助・共助・公助の理念にのっとり、相互に補充し合いながら、まちづくりを行うものとする。



①コミュニティ活動の推進

市内各地域にあるコミュニティセンターを核として、地域の実情に合った暮らしやすいまちづくりを進めます。

②市民交流の推進

イベントの開催や方針の策定などに市民の参画が当たり前になりました。今後も様々な形で市民との連携を進めていきます。

③まちづくりを担う人材の育成

市民協働センターが市民活動に関するサポートを行うとともに、市民が気軽に参加できるまちづくり等の講座を開催します。

④子どもたちの育成

新潟アルビレックス BB 選手による小中学校への訪問活動など、子ども達が健やかに成長するための場づくりを進めます。

⑤情報の共有

従来の紙媒体による情報発信を継続するとともにオンラインやSNSも活用し、より多くの人に情報を届けていきます。

⑥活動資源の確保等

より多くの企業や市民から市民活動を応援してもらうため、協賛金やクラウドファンディングなどの手法を伝えていきます。

⑦市政への意見の反映

市民活動は社会課題を敏感に感じ取るのセンサーのような一面もあるため、市民活動団体の声を市の施策に活かしていきます。